

泌尿器科

Department of Urology



世界トップレベルの 標準・高度医療を安全性高く提供

標準的な医療を安全に提供するのみならず、近年の知見を積極的に導入した最先端の医療にも積極的に取り組んでいる。体腔鏡下手術を国内でいち早く取り入れた実績をもとに、近年では単孔式手術やロボット支援手術にも力を注いでいる。泌尿器科がんに対してはQOLを考えた低侵襲手術を重視し、さらに、外科的手術のみならず、放射線治療や新規抗がん剤治療などを組み合わせた集学的治療プロトコルを確立することで、他施設では治療が困難な患者さんにも積極的に対応している。また、排尿障害、小児泌尿器、男性不妊症、腎移植に対しては専門外来を設置し、さまざまな臨床試験に取り組むとともに、安全で患者さんに優しい医療をめざしている

代表的診療対象疾患

副腎腫瘍・腎細胞がん・尿路上皮がん(腎盂がん、尿管がん、膀胱がん)・前立腺がん・精巣腫瘍・前立腺肥大症・尿路結石症・尿路感染症・男性不妊症・腎不全・尿失禁・排尿障害・尿路性器系先天異常(膀胱尿管逆流症、水腎症)・後腹膜腫瘍

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

2013年度の外来患者数は延べ31,581人であった。前立腺がん・膀胱がん・尿失禁/排尿障害・腎移植・男性不妊症・小児泌尿器科疾患などに重点を置き、専門外来を設置して診療にあたっている。前立腺がん症例の急増と多様化する治療オプションに応えるため、前立腺がんユニットを開設し、毎週水曜日に泌尿器科医と放射線治療医が合同で診療を行っている。また、膀胱鏡検査や前立腺生検のような特殊検査、停留精巣などの小児疾患や男性不妊症などの手術は、日帰り検査・日帰り手術として実施している。

入院診療体制と実績

積貞棟8階に38床の病床を有し、2013年度の入院患者は延べ12,573人(男性10,478人、女性2,095人)であった。高度医療を行う大学病院であるため治療が困難な患者さんが多いものの、2013年度の

平均在院日数は9.9日と年々短縮されている。2013年度は531件の手術を施行(中央手術室468件、日帰り手術室63件)。2011年4月から開始したロボット支援下前立腺全摘除術は、2014年4月末までに182例施行している。また腎部分切除術・腎盂形成術・膀胱全摘術もロボット支援手術が導入され、すべて安全に施行できており、患者さんの満足度も非常に高いものである。



臨床研究の取り組み

多様な多施設共同臨床試験も実施

前立腺がん術後の合併症軽減や男性機能温存のため、勃起神経温存手術を積極的に行っている。また、神経温存が困難な症例には、神経移植術・神経再生誘導チューブ移植術による勃起神経再建をロボット支援下で実施。JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)に属し、表在性膀胱がんに対する再発予防法など、数多くの多施設共同臨床試験を実施している。昨年からは上部尿路がんに対する術前化学療法に関する多施設共同研究(NACNUK試験)も開始している。男性尿失禁に対する人工括約筋埋め込み術も行っている。

